循環型社会構築への貢献の取り組み

JR西日本グループ共通目標として、PETボトル水平リサイクルを推進しているほか、グループ各社で資源循環の取り組みを推進しています。

衣料品リサイクルの取り組み

ショッピングセンター事業を統括するJR西日本SC開発株式会社では、商業施設を起点とした循環型社会モデルの実現を推進しています。

日本国内での衣料品廃棄が年間47万トンも発生している課題を背景に、ルクア大阪のようなファッションビルでは、テナント売上の多くを衣料品が占めているため、持続可能なファッションビジネスの実現に向けて課題解決に取り組んでいます。駅直結型の商業施設というタッチポイントの多さ、地域やお客様、事業者とのつながりを活かした、アパレルの循環型社会をめざすプラットフォーマーの役割を果たすべく、衣料品回収の取り組みを推進してきました。

具体的には、衣料品を3つの回収区分に分け（「めっちゃええ服」「可能性だけは感じる服」「さよなら、なんとかなれ」）て回収を行い、2024年度はブックオフコーポレーション株式会社や、残廃棄衣料品からの水素化に取り組んでいる株式会社BIOTECHWORKS-H2にお渡しし、リセールおよび水素化をすることで資源活用に取り組みました。今後、さらなる活用方法を検討します。

また、別の取り組みとして、お客様に「捨てる」以外の選択肢を提案する「服の決まり手82手」を開始し、消費者の意識変革を促進し、衣料品廃棄の社会課題の解決をめざします。



みらいのファッション人材育成プログラム
最終発表会の様子



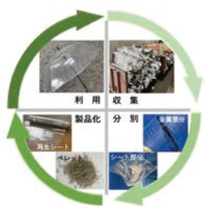
「捨てる」以外の選択肢を提案する
「服の決まり手82手」

忘れ物傘リサイクル（傘to傘）の取り組み

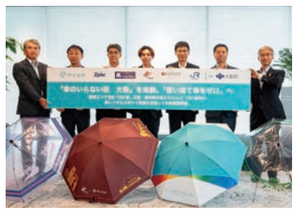
駅や列車内の傘の忘れ物は、近畿エリアだけでも1か月で約9,000本にも及びます。従来、そのうち廃棄せざるを得ない傘は産業廃棄物として処理していました。当社グループではこの忘れ物傘に着目し、2025年度から傘から傘へリサイクルを行うサーキュラーエコノミーの取り組みを始めました。具体的には、廃棄する傘からビニール傘を収集し、金属部分とシート部分に分別。シート部分からペレットを経て再生シートを生成し、再びビニール傘へ製品化する取り組みを行っています。

廃棄傘から製品化したビニール傘は、JR西日本ヴィアインホテルズで、お客様への貸出傘として導入を開始し、今後もホテル事業での展開を検討しています。また、近畿エリアでは、傘シェアリングサービス「アイカサ」と連携し、傘to傘によるリサイクル傘を2025年8月以降、大阪環状線・JRゆめ咲線の各駅に設置しています。

今回の取り組みにより、ビニール傘のリサイクル率は重量比で約90%まで向上し、産業廃棄物の削減と資源の有効利用につながっています。また、廃棄ビニール傘から作り出すペレットは傘以外の製品にも適用可能であり、ジェイアール西日本商事株式会社を中心に、その他の製品開発の検討を行う予定です。今後もJR西日本グループ一体となって、循環型社会構築への貢献に取り組んでいきます。



傘to傘のイメージ


傘シェアリングサービス「アイカサ」との連携による
「傘のいらない街 大阪」プロジェクトへの参加

自然との共生の取り組み

JR西日本グループ共通目標として、水使用量の目標を設定し、使用量の削減を推進しているほか、グループ各社で自然との共生の取り組みを推進しています。

大阪駅（うめきたエリア）の自然共生の取り組み

当社では、大阪駅（うめきたエリア）をイノベーションの実験場「JR WEST LABO」と位置づけ、外部のさまざまなパートナーと共に新たな価値を創造しており、イノベーションを通じ「お客様とともに進める環境負荷軽減の取り組み」を実現させたいと考え、脱炭素をはじめとした、環境に関連するさまざまな技術を実装してきました。

大阪駅（うめきたエリア）では、薄型・軽量の次世代型太陽電池「ペロブスカイト太陽電池」や自然採光とその明るさに応じた照度へ調整する「自動照明調光」、「地域冷暖房」などを採用することに加え、再生可能エネルギー由来電力を活用し、当社初の電力由来CO_2排出実質ゼロの駅を実現しました。

2025年3月に開業した、うめきたグリーンプレイスをはじめとしたうめきた2期区域においては、自然との共生を考慮した緑地整備を行いました。うめきたグリーンプレイスでは屋上・壁面を約1,900㎡緑化したほか、広場も約1,600㎡緑地整備を行い、緑被率約30%と併せてデザインでもうめきた2期区域のエントランスに相応しいシンボリックなゲート空間の形成に寄与しました。この取り組みによるCO_2吸収効果は年間約40tを見込んでいます。また、通常の舗装時と比較し、約10%の雨水流出抑制効果が期待されます。


うめきたグリーンプレイス

地域と連携した森林再生の取り組み

旧三江線は、島根県江津市と広島県三次市を結ぶ鉄道路線で、2018年4月に鉄道事業が廃止されました。旧三江線の沿線には多くの鉄道林が存在しており、その有効活用が課題となっていました。鉄道林は、雪害や土砂災害から線路を守るために整備された森林であり、地域の環境保全にも重要な役割を果たしています。

今回、旧線路敷を活用した森林再生実証実験を行い、①線路敷を活用した木材搬出技術、②線路敷周辺の森林資源活用可能性、③野生動物対策を考慮した再造林計画について、JR西日本、美郷町、鳥取大学、広島大学および邑智郡森林組合の産官学民が連携して取り組みました。

実証実験の結果、今まで営業線の影響により間伐や植林などが思うようにできず自然更新だった鉄道林においても、立地条件によっては、一般林地同程度の森林資源量を有し事業性のある林地であることが確認できました。また、旧線路敷は路盤強度、平面線形、縦断線形など、林道規定の基準を満たしており、レールやまくらぎなどが未撤去であっても林業用重機が走行でき、林内路網の一部として機能することが確認できました。

今後は、旧線路敷を活用した森林再生実証実験を継続するとともに、鉄道林に隣接している民有林にも森林施策を広げ、沿線地域の活性化に貢献できるよう検討していきます。また、赤外線センサーカメラや空気中の環境DNA解析などによる野生動物の行動把握を行い、鉄道林を含めた鉄道沿線の野生動物対策や生物多様性の評価を行っていきます。


旧線路敷での重機を使った木材集積作業


関係者による森林資源現況調査